

令和4年第2回香美市議会定例会 11月臨時会議 市長提案説明

本日、議員の皆様のご出席を頂き、令和4年第2回香美市議会定例会、11月臨時会議が開かれますことに、厚く御礼申し上げます。

さて議案の説明に先立ち、最近の香美市の取り組みを例に挙げながら、私の政治姿勢や市政運営についての考え方についてご説明いたします。

まず香美市立図書館かみーるについてであります。香美市立図書館かみーるが、11月3日文化の日に開館いたしました。

市議会議員の皆様をはじめ、ご来賓、多くの市民にご出席頂き、盛大に記念式典が執り行われましたこと、改めて御礼を申し上げます。

この図書館は、知の拠点、交流の場、発信の場という3つのコンセプトを掲げております。

人口減少、少子高齢化、環境問題。コロナ禍における経済的な苦境。子ども達を取り巻く貧困、不登校。ひきこもりの課題など、挙げればきりが無いほど、これからの日本、そして香美市が直面する課題は大きく、多種多様です。

こういった社会の変化の中で、これからの香美市の発展のためには、これまで以上に、市民の皆様と一緒にした取り組みが必要であり、市民の力を最大限引き出せるような取り組み、社会人の学び直しも含めた社会教育の場づくりが重要であると思っております。

市民の皆様や企業、大学そして行政が、一緒に考え、一緒になって社会の課題を解決する。そんなモデルを、この新図書館を中心に実現できるのではと、期待しているところです。

そして今週の月曜には、鏡野中学校の生徒さんが、こども議会ということで、この議場で、香美市政に対して質問を行ってくれました。

生徒の皆さんが日ごろ感じている香美市の課題について、しっかり調べて、質問をしてくれました。私自身、レベルの高い質問であると感心しました。

政治の世界では、最近EBPMという言葉が注目されていますが、まさにこのEBPMの考え方で質問して頂いたと感じています。

少し説明させて頂くと、EBPMとは「Evidence・Based・Policy・Making」の略称で、証拠に基づく政策立案と訳されます。

香美市の小中学生は、一人一台タブレットで学習していますが、知りたい情報をインターネットで調べ、その調べた情報を踏まえて質問してくれました。

インターネットがない時代では、行政が出す情報や統計データを、手に入れるためには、多くの時間がかかりました。その結果、政治に関わるのは、限られた人だけという状況だったのだと思います。

しかし、生徒さん達が、香美市の人口推移などのデータを基にして、議会での質問をしてくれている姿を見て、政治について知ろうと思えばすぐに調べることができるし、中学生と市の職員が課題を共有し、アイデアを出し合って、政策を考えることが出来る時代が来たのだと思いました。

市役所の情報発信について、もっと分かりやすく、またタイムリーに発信できるよう検討を進め、中学生や市民からもフィードバックを頂き、現場の声をより反映させることのできるよう取り組んでまいります。

また昨年3月には、香美市でもオープンデータ利用規約を定めました。オープンデータという「香美市の公共データを、市民や企業などが利用しやすいよう、機械判読に適したデータ形式により、二次利用可能なルールで公開する」取り組みにも、しっかりと対応してまいります。

新図書館の有効活用、また市役所の政策に対する情報発信、データの提供などを通じて、市民の皆様と一緒に政策立案の議論を深め、香美市をより良い町にするべく、取り組んでまいります。議員の皆様からも、香美市の情報発信の在り方について、ご指摘いただけたらと思っております。何卒よろしく願いいたします。